

このような作品が作られ、

多くの人々の目に触れるべきだとの必要性を
痛感しています。 — 坂本龍一（音楽家）

ぼくは、ここで生きている。

BASURA

バスーラ

【バスーラとは】タガログ語で「ゴミ」を表す

監督・編集：四ノ宮浩 製作プロデューサー：森崎偏陸／長島洋 配給プロデューサー：金子学 撮影：大廣康夫／瓜生敏彦（『忘れられた子供たち スカベンジャー』） 整音：久保田幸雄 音楽協力：Wong Wing Tsan
製作協力：独立行政法人国際協力機構（JICA） 協賛：資生堂 後援：財団法人日本ユニセフ協会 フィルム協力：富士フィルム株式会社 共同配給：浦安ドキュメンタリーオフィス 共同製作：映画5000人製作委員会
エンディングテーマ曲：坂本龍一「hwit」（アルバム「out of noise」より） 製作・配給：オフィスオープンプロダクション 2009年/102分/HDCam basura-movie.com

『忘れられた子供たち スカベンジャー』 マンハイム国際映画祭 ベストドキュメンタリー賞、『神の子たち』 シネマアンビエント 国際環境映画祭 グランプリ 監督・四ノ宮浩 待望の最新作

どうしたら貧困と飢餓と戦争はなくなるのか

20年前、世界の貧困の象徴とされたゴミ捨て場の街「スモーキーマウンテン」で暮らしていた子供たち。
彼らの足跡をたどることで見えてきたゴミをめぐる根深い問題と、過酷な現実。

想像を絶する光景である。まさにこの世の地獄だ。生と死の境界線など何もない。

茫然とした天と地の果てしない相克があるだけだ。絶対の貧困があるだけだ。—— 梁石日(作家・『闇の子供たち』)

わたしたちはここに登場する人たちと、決して無関係ではないし、無視して通り過ぎることはできない。

アジアの深い繋がりのなかで生きていることを、改めて突きつけられます。—— 大石芳野(写真家)

これは四ノ宮浩という人間の生き方そのものの記録だ。

四ノ宮の生き方が、私たちの目の前にこれでもか、これでもかと迫りながら、日本にいる私たちの生き方を問うてくる。—— 本田雅和(ジャーナリスト)

人類はお金の問題、教育や医療の問題、子供の問題をそろそろ真剣に考えてゆかねばならないようです。

僕もその一人。なにが出来るのか分かりませんが、まずはじっくり考えたいと思います。—— YANAGIMAN(音楽プロデューサー)

腹が立つ!ムカつく! 子供たちの夢や希望を奪い取る腐敗したフィリピン政府。

どうにかせねば... そんな正義感(感性)を奮い立たせてくれる(全く腹が立つ映画)だ。—— ドン小西(ファッションデザイナー)

BASURA

バスーラ

【バスーラとは】タガログ語で「ゴミ」を表す

2009年/102分/HDCam



STORY

「戦争という現実を自らの目で見てみよう」と決意して世界を放浪した四ノ宮浩が最後にたどりついたのは、自らの作品の原点フィリピン・マニラだった。売春を行い薬物にまみれた生活を送る子供、ゴミ拾いを仕事として暮らす人々……。以前と変わらぬ貧しい人々の光景に愕然とした四ノ宮浩は、処女作『忘れられた子供たちスカベンジャー』を通して出会った登場人物たちをひとりひとり訪ねる旅に出た。

フィリピンのスカベンジャー

マニラ近郊の巨大なゴミ捨て場の街「スモーキーマウンテン」には、40年以上にわたりゴミを拾って転売することを生業とする2万人以上の人々が暮らしていた。しかし、世界から貧困の象徴として注目されたことに耐えかねた政府は、1995年に街を突如閉鎖。生活の場を奪われた人々に対し仮設住宅が用意されたが住人の9割は仕事が見つからず、現在もそのほとんどが近隣にできた新しいゴミ捨て場で以前と変わらぬゴミ拾い生活を続けている。

四ノ宮浩
(しのみやひろし)

1958年、宮城県出身。89年に訪れたフィリピンのゴミ捨て場の街「スモーキーマウンテン」の現状とそこで暮らす子供たちの純粋さに衝撃を受け、以後20年にわたりゴミ捨て場を舞台とした映画制作を続ける。過去作品に『忘れられた子供たち スカベンジャー』(1995年マンハイム国際映画祭ベストドキュメンタリー賞受賞・1996年地球環境映像祭社会環境映像賞受賞(ほか多数受賞))、『神の子たち』(2002年シネマアンビエンテ国際環境映画祭グランプリ受賞・2002年ベルリン国際映画祭正式招待)がある。

basura-movie.com

お問い合わせ

オフィスフォープロダクション

03-6425-9037 info@basura-movie.com

2010年9月12日(日)
13時開場 13時30分開演

四ノ宮浩監督講演会・パネルディスカッション
15時30分～17時(予定)

せんだいメディアテーク
7階 スタジオシアター

(〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1)

入場無料、予約不要

主催: 「BASURA」東北上映実行委員会、JICA 東北 後援: 仙台市教育委員会、(財) 仙台国際交流協会、河北新報社(一部申請中)
お問合せ先: JICA 仙台デスク波塚 (Tel:022-265-2449 e-mail:jicadpd-desk-sendaishi@jica.go.jp)